神さまの怨結び
かみさまのえんむすび
11
守月史貴
KAMI ZUKI SHIKI
Champion RED Comics
RED

神さまの怨結び 11

❖かみさまのえんむすび

守月史貴

Champion RED Comics

紅
■蛇より分かれたもう一つの神格。その正体は神社にある御神木で一度は蛇により消滅された。だが僅かに残った力を用い逃れる。櫻の後輩、佐々の昏い欲望に目をつけ、彼を使役しているが……。
赤縄が吾の元に帰ってきたのです!!
在るべきものを在るべき場所に……
蛇
■怨結びの呪いを授けていた神。様々な呪い人と縁を持つことで、その内面は徐々に変わってきた。紅により神の座を追われるも、クビツリの協力により返り咲く。その時から内面の変化は一層強くなった。紅と佐々の策謀によりクビツリとの繋がりが断たれた時、己が起こした全てを思い出す。それにはクビツリの体、九来木辰巳への罪もあり……。
クビツリ
■赤縄で首を吊って以来、蛇の使いとなる。その体は幼少期に蛇とある約束を交わした九来木辰巳。佐々と紅の策謀により、異界に飛ばされるも、残されていた自身の左腕と蛇の力により帰還を果たしたが……。

怨の縁に絡め取られた人間たち

櫻 美咲　さくら みさき

■同級生に呪いを使った過去を持つ刑事。怨結び（えんむすび）を追う中、蛇（くちなわ）やクビツリと親交を深め、今では……。

名無　ナナ

呪いを使ったまつりの死産の子の魂が母体に宿り名無に。母を元に戻すと己がどうなるか覚悟している。

乙梨 叶　おとなし きょう

■かつて蛇（くちなわ）を殺そうとしたクビツリと両思いの少女。怨が刻まれたクビツリの左腕を保管していた。

安登まつり　あとう まつり

■名無の母。呪いの代償でその魂を喪失させてしまう。

安登　あとう

■まつりの父で櫻の上司。クビツリ奪還の折り、名無の激情に触れ名無を名無として初めて認めた。

佐々　ささ

■櫻の部下。櫻に恋慕するも、その思いは歪んでしまった。そこを付け込まれ、紅の使いをすることに……。

稲葉　いなば

■櫻を好きで、櫻をからかっていた。櫻に消されてしまう。

頼む…結べ、朽（く）ち縄（なわ）、いやクビツリ!!

紅（コウ）と佐々の罠により、クビツリは異界に飛ばされてしまった。そこで彼はかつて呪いを何回も使った少女、江西知霧（えにしちぎり）に出会う。彼女の案内で幾つもの呪いの痕跡を巡るクビツリは、呪い人（のろいびと）の様々な背景を見せつけられているように感じていた。

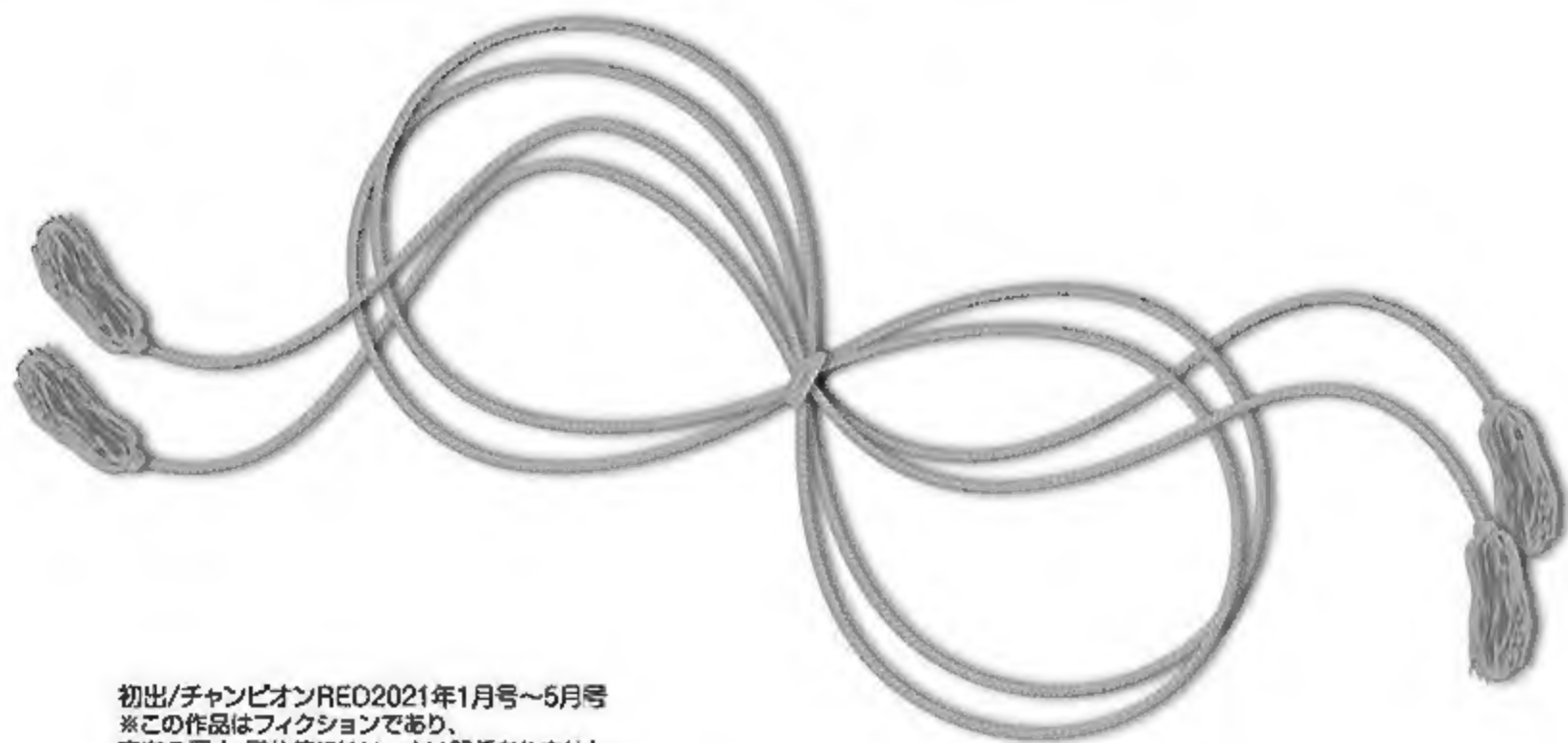
一方、警察よりクビツリの死体を強奪した叶と名無は、まつりの父と一緒に神社を訪れる。深々と安登に頭を下げる蛇（くちなわ）。その蛇（くちなわ）にクビツリの体を預ける安登――。

クビツリの体と、叶が保管していた怨（えん）が刻まれた彼の左腕を前にした蛇（くちなわ）は、最初で最後の〝縁結び（えんむすび）〟を実行。異界からクビツリを呼び戻すことに成功する。

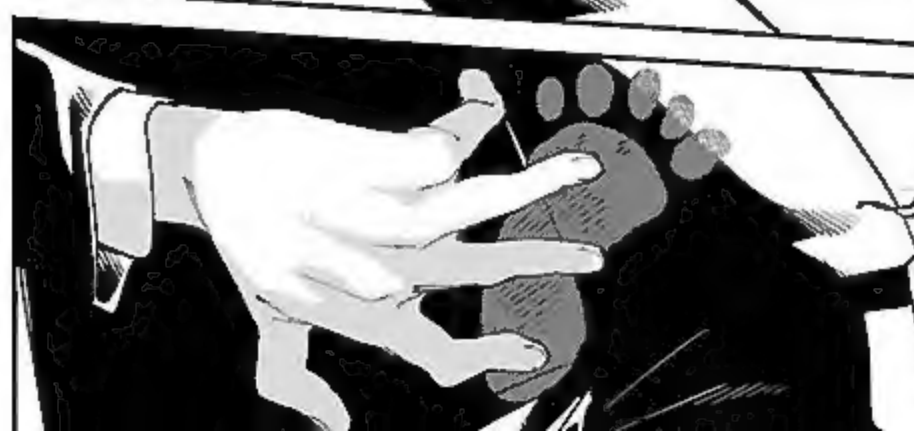
しかし蛇（くちなわ）は、せっかく呼び戻したクビツリに突然の神社出禁を言い渡し……。

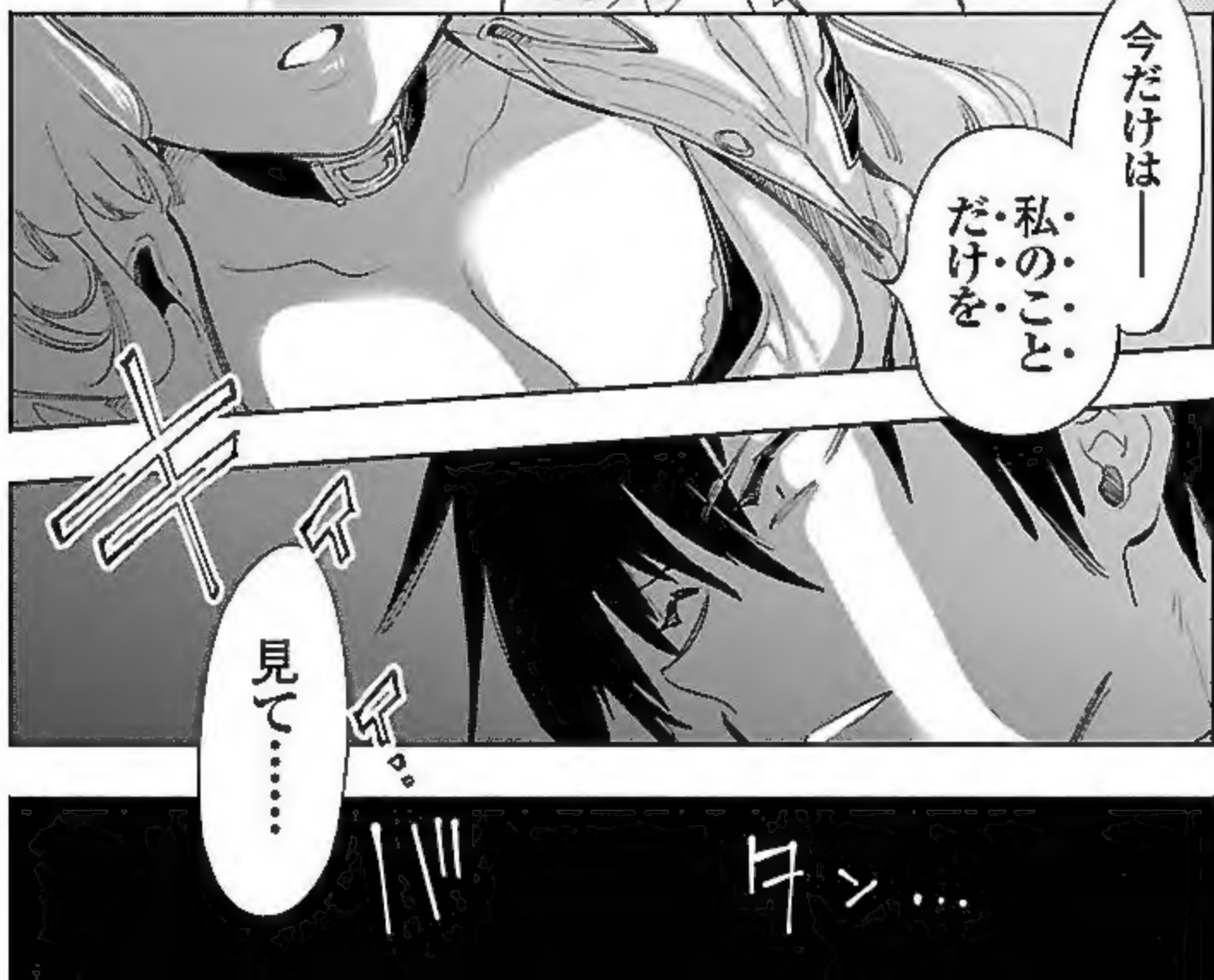
そなたには神社への立ち入りを禁ずる――

解雇通告に戸惑うクビツリ、蛇（くちなわ）の真意は――!?

目次

初出/チャンピオンRED2021年1月号〜5月号

いきなりクビって……
どういうことだよ!?
言わねば分からぬか〜〜〜〜?
はぁ
あぁ
そなた何回捕まれば気が済むのだ?
ぐぬ
…
第五十九節❖寄り添う影
一度ならず二度三度……
もう妾はうんざりなのだ!
捕まえた
監禁した
監禁した
すっ
だからって今後俺抜きでどうすんだ

今後は
そこの男に
働いて貰う
私は君たちを
捕まえる側
なのだが……
ここは従って
おいた方がいいよ
無能なフリして
呪いを配らない
なんてのもできるし
なるほど
そこ！
全部聞こえ
てんだよ
ほっ
いいから
とっとと……
ここから
出て行け!!
……
痛ってえ……

あのやろ本当に
なんの説明も無しに
追い出しやがった……
大丈夫ですか？
悪い……叶こそ平気なのか？
その 俺みたいのが いきなり家に 押しかけて
何言ってるんです？ 前にも来てくれたじゃないですか♥
……その時監禁されかけてんだけどな……？
……大丈夫
うちには私以外誰も居ませんから
？ 誰も……って
お前――
だから……
ねっ

いっぱいお話ししましょう！
いっぱい いっぱい……
あなたの知らないことも全てお話ししますから
だから
今だけは──
私のことだけを
見て……
ギィィィ
バタン…

——よかったのかい？
あんな嘘をついてまで彼を神社から追い出して
ふん
ああでも言わねばあやつは落ち着いて…
…休まぬからの
ましてや『もう一つ』の怨結びの詳細を知ってしまえば尚更——
叶の学校で起きた『女子校連続昏睡事件』
そんで『男子校連続怪死事件』
どっちも蛇は関係してなかったとはね——……
そう
……しかし犯人の目星は付いておる

以前 蛇を神社から
追い出した
紅って
奴かー…
『実は
倒し損ねてました』
ってさあ……
…に
してもさあ
お前
それでも
神様かよ
…返す言葉も無い
しかし
紅も妾も所詮
朽ち縄あっての
神なのだ
朽ち縄の
大部分を紅に
奪われ
唯一残った僅かなそれも
クビツリを動かすのに
使ってしまった今

犯人が分かっていても

今の妾（わらわ）に対抗する『力』はない……

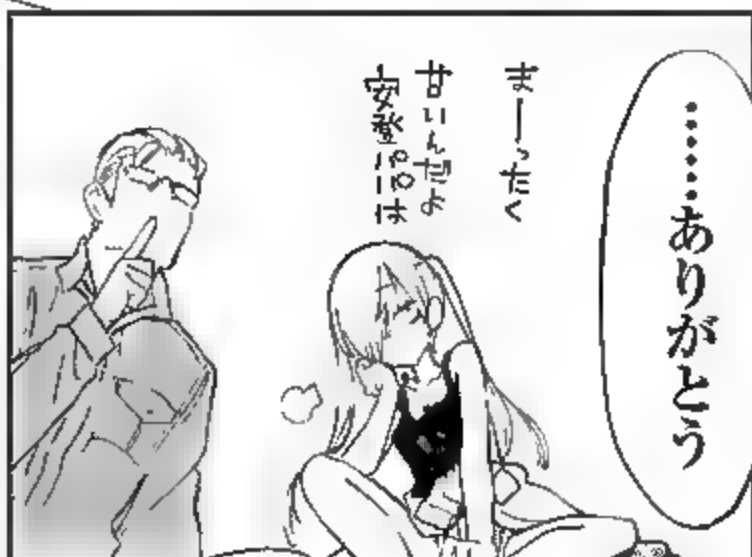
——ああそうだ！すっかり忘れていたんだが……

ごそごそ

これは……君のかね？

彼の持ち物も念のため警察から回収しておいた

何かの役に立てば良いのだが…

……あれからずっと──
これ自体にはなんの力もないが……
……妾にとっては大切なものだ
肌身離さず持ち歩いてくれていたのだな……
……ありがとう
ま～ったく甘いんだよ安登パパは

……今のままでは何も出来ぬが——
『策』はある！
妾とて このまま奴らの怨結びを見逃すつもりはない
『あれら』が望まれた怨結びとは到底思えぬ
あれでは……呪いの押し売りだ！

安登まつりが戻るか否かの『選択』は——
最終的には彼女自身に委ねられる
それだけは……心しておいてくれ
ママの……
『選択』……？
ようやくここまで来た……
まつり…！

ごめんなさい
お夕飯は腕によりをかけて……
と言いたいところなんですが
今クビッツリの腹には縄が入ってないから
飲食は絶対厳禁だ。
って蛇に釘を刺されてしまって
なので
のるん
代わりにこちらでおもてなしさせてください……♡
待て待てちょっと!!
今さらっと意味深なこと言っただろうが!
はい?
……そうだ!俺を刺した奴も言ってたんだ——
俺が呪われた蛇だとかなんとか……
はい

朽ち縄ですよ？
クビツリさんは怨結びのための道具だったんです
それが亡くなった男性に入り込んで
彼の人格や記憶を元に
まるで人のように振る舞ってきた

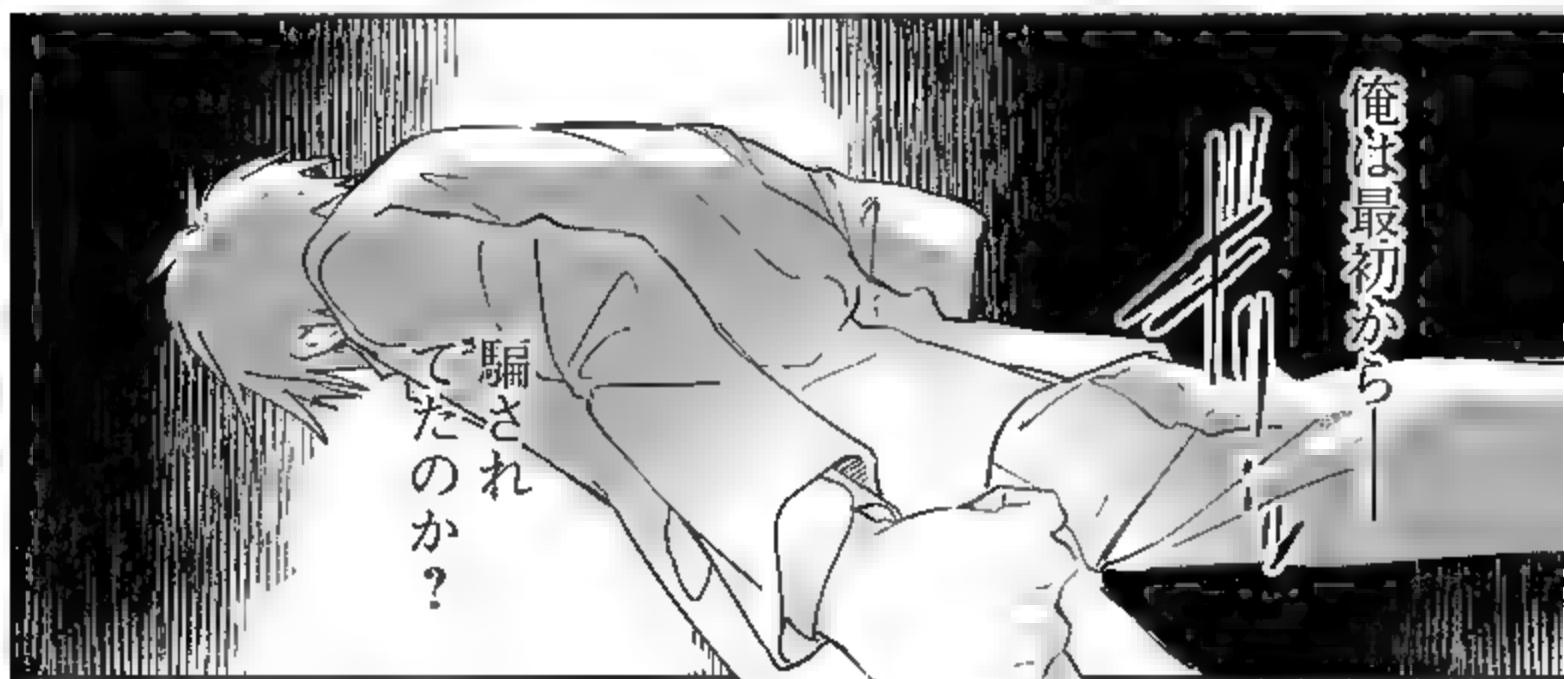
あなたがずっと眠っていたのは
刺されたからじゃなくて
『あなた自身』が抜き取られてただの死体に戻ってただけ
……だそうですよ？
叶……
それ……お前の考えた冗談ってことは
こんな面白くない冗談が言えるほど
私ユーモアの死んだ人間じゃありませんよ♡
そっか……
そうだよな
……

ごめんなさい！
そんなに落ち込むと思わなくて……
私の伝え方…何かまずかったですか!?
いや…叶は何も悪くねえよ……
ただいきなり『お前は人間じゃなかった』
とか言われても全然飲み込めねえっていうか……
お前はそんな得体の知れない奴と喋ってて
気味悪いとかねえのかよ

？
得体の知れない奴って誰？
私……最初から『クビッツリさん』としか話してないです
悪い……変なこと言って
……詳しく……
教えてくれねえか
……っ

朽ち縄を使って
一人の男性が自殺した
祟り神だった蛇は
遺体のはらわたを奪い
朽ち縄はその
お腹に収まった……
クビツリさんって
一般常識も知識も
あるでしょう？
なのに生前の記憶「だけ」が
抜け落ちているのは
何故なんでしょうね
整合性を保つため？
それとも――……
あなたは死んだ彼を
模倣はしたけれど

ちなみに朽ち縄は蛇と繋がっていて
あなたの食べた物は全部蛇のお腹に届けられてたんですって
不思議ですね～！
………

……あいつは……
どうして自分を『くちなわ』だなんて名乗ったんだ
分かりません
でももし蛇の立場なら……

俺は最初から――

騙されてたのか？

でも

あいつは

……！

『蛇はそんな奴じゃない』

……ですか？

そう思うなら
実際に変わったんじゃないですか？
あの人
いえ……
あなたと過ごす内にあなたが変えたんです
俺が……？
蛇だけじゃない
あなたが声をかけた人は少なからずみんなみんな……
人生が大きく変わってしまった
何故なら

あなたの呪いは
人を狂わせる
私も……変わったんですよ
き
叶……？
あの日あなたに出会って――……
私も『呪い』をかけられたの

さっきは周囲にまで気が回らなかったが
この家――
何か……

おい……叶
以前……俺が来た時は――
階段下の部屋に匿っただろ？

なんで……今日は隠さない？
家の人は…
この家には
どうして……そんなこと訊くの……？
家の人なんて居たところで――

邪魔でしかないのに？

生活感が無い

あははは！
今――私が家族を殺したとでも思いました？
さすがに……しませんよそんなこと！
ふふふ……っ
今のくびつりさん表情おかし……っ
ヵ――
おま…ッ
人がなー！本気でなー!!
ぐっ

好き
大好き!
…ばかなひと
こんな状況でも
まだ人のこと
ばかり考えて
あなたは
私のことなんて
心配しなくていい
だって私
ちっとも不幸
じゃないもの
私にとっての
不幸は——

……あなたに
愛して貰えないこと
だけだもの……
き叶…
今……そんな……してる場合じゃ
どうして？

自分なんかが
幸せになっちゃ
いけない――
とか……
思ってます？
救われても
ない人が
誰かを救おう
なんて――
自己犠牲
だなんて……
馬鹿げてる！
だったら
そんなの
間違ってる
私は
あの日私を
救ってくれた
あなたを
救いたい
クビツリ
さんは――

……あなたはどうして
・・・ここに来たの？

〝あの時 救われたいと 本気で——……〟

俺は……叶に救われたくて

ここに居る……

……俺は
いくら偽善と
言われようが
呪いに縋らなきゃならない
奴らを救いたかった
たとえ今の俺が
死んだ男の模倣から
始まったとしても
それだけは
……それで良い
蛇ー！
頼まれた物
用意して
きたけどー？

人に成れ

色々と助かった

そして――

さて――

最後に叶へ言伝を頼まれてくれるか

〝儀式の準備は整った〟

――とな！

第六十節❖戦いの意味

何故
村のため命を賭した妾が封印されねばならぬ!?
憎い……
憎い……!
随分と長い時代を――
この哀れな娘と共に過ごしてきたが
自分が娘を縛り苦しめ続けることになんの意味があるのか
どうにか助けてやれないものか――
そんな漠然とした意識はあれど
それを明確に表す言葉も術も持たなかった

あの時までは・・・
第六十節❖戦いの意味

俺は彼女を裏切った
迷い込んだ俺を神社から帰してくれたお姉さんを裏切って――
ガキ同士のつまらない約束のために黙って神社の物を持って行った
朽ち果てたボロい縄だ
だから
罰(ばち)が当たったんだ
親兄弟 親しい友人 俺に関わった人全て
なんらかの不幸に見舞われて消えていった
止めるにはもう……俺が死ぬ他なかった
だけど死に際になって――

思い出したんだ

神社のお姉さんに
ここから出してやるって
約束したことを

同じ娘を
助けようとしている
……
……
…そう……
か……
俺も・・・こいつも
蛇を助けたかったのか……
もぞ

むく
叶……起きてたのか
クビツリさんお身体の具合……どうですか？
辛くないですか？
俺は大丈夫だ
それより叶……櫻に連絡とれないか？
刑事のあいつに伝えなきゃならないことがあるんだ

ひどいっ
さっきまで
あんなに
愛し合ったのに
起きたら
次から次へと
他の女の名前ばかり
他の女ッて
ちげえよ!!
そんなつもり
……
……ごめん
ふふっ
冗談
ですよ♡
え…
そのぐらい
お安い
ご用です
で
何があったん
ですか？

叶の学校で起きた
俺も蛇も知らない怨結び――
……俺の知ってる刑事が
恐らく『あれ』に関わってる
ドドッ
……先輩はもう少し賢いと思ってました
本当に怨結びを追う気あるんですか？

……どうして佐々くん一人なの？
私てっきり取り調べを受けるものだと思ってたんだけど
後で他の刑事がやりますよ
形式上ですけどね！
今となってはあの死体そのものが機密なんですよ……！
……そう
遺体の引き取り手が無いのをいいことに――
正規でない手段で彼を『消し去る』つもりだったのね

そりゃ
そうでしょ
17年前からタイムスリップしてきた死体なんて無い方がいいに決まってる！
だからさっさと解体さないと――
どうして……そんなに彼を解剖したがるの
化物は徹底的に『解体』するまで安心できないからですよ
さあ――取り返しが付かなくなる前に教えてください
死体を何処に隠したのか！
警察に居られなくなってもいいんですか!?

私

警察は辞めるわ

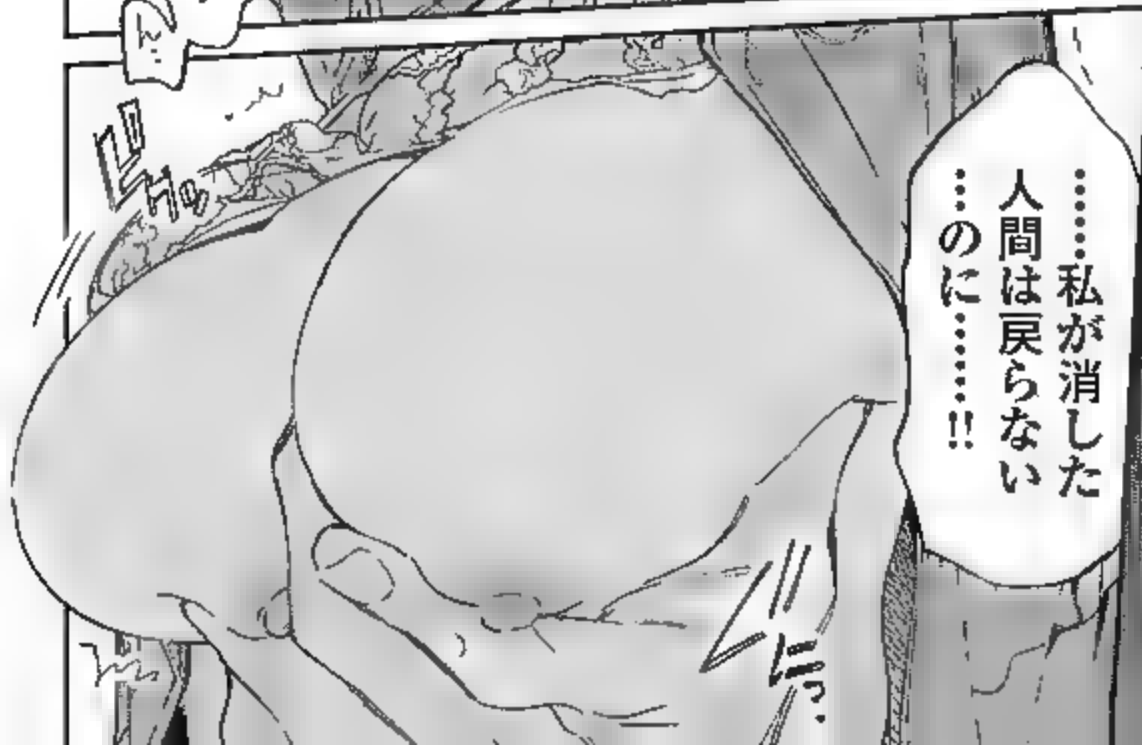
は？

遺体を盗んだ時点で覚悟はしてたもの
それに警察が怨結びを解決でなく
闇に葬る方向で動くなら
私はもう従えな

は？
なんすかソレ
諦めるんですか？
んンッ…!?
そんなの
俺は認めない
先輩が怨結びを追うの
やめるって……
それじゃ……
それじゃあ――
俺のしたことは
なんだったんだ

ーッ!?
ビクッ
ビクンッ
パチ

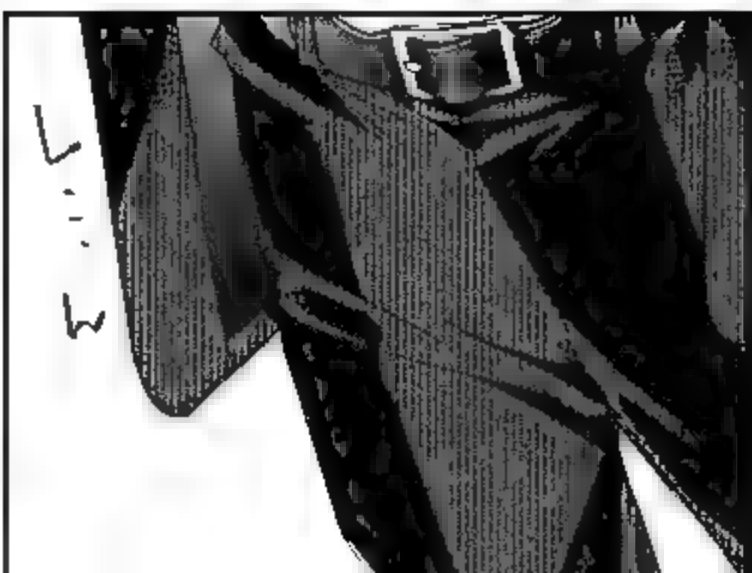
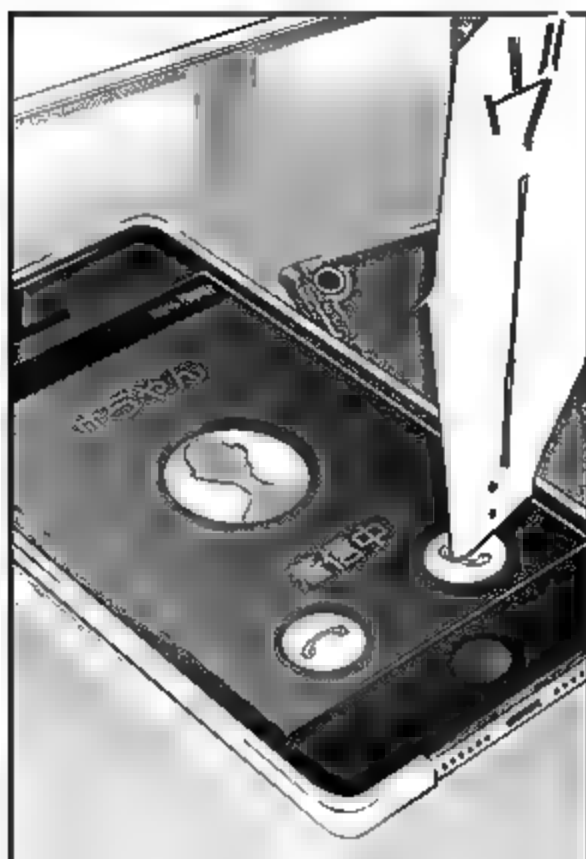
やめ…て！
なんでこんなこと……っ
今更なに真面目ぶってんすか？
前はそっちからしてきたくせに
あ
あの時……っ
私が「あんなこと」したせいで
あなたを非道く傷付けたことを…後悔 してて
い…いくら身体を捧げたところで
は
あっ
はっ
稲葉は……
……私が消した人間は戻らない…のに……!!

だからもう――こんなことはやめようって！
決めたの……っ
ひうっ⁉
…やっ
あ‼
びッ
ひっ
あ
……なんすか？
それ

そういう先輩の身勝手で——
ぬちっ
これまでどれだけの男を振り回してきたんすか？
はっ
ごめ、
な
さ、
だ…
も…やめ……
や
……っあ！
…あぁあ!!

……
……?

しーん

え……?

……
…くそっ!!
ガラッ
バン!
チン!!
……
…佐々……くん
あなたは——……
ヴ…
ヴー…
ヴー…

あなたは
いったい『何』と
闘ってるの――……？

ねー例の噂知ってる？
ちょっと前に流行ったエッチで人が消せる呪いってやつ――

今その亜種が出回ってるんだって

『願いが叶ったら作り物の鳥居を部屋に置く』

って……決まりがあるの

手作りでもなんでもいいんだってさ

いったい俺は
なんのために
――!!

引き続き
吾の『怨結び』を広める
手伝いをするのです☆

にゅふふふ……

何故こんなことを
するのかって？

吾は『信仰』を
欲しているのです
叶えて
やった者には
どんなに
小さくてもよい
『鳥居』を作り
家のどこかに置くよう
指示するのです
どんなに薄い信仰でも
寄り集まれば大きな力と
なる……
……俺が知るかよ
そんなこと
櫻先輩が追って
くれない怨結びに
なんの意味がある？
考えろ
考えろ……
なんとかして先輩が
追わざるを得ない
状況を作り出せ
でなきゃ
俺の復讐が

……先輩との繋がりが
何一つなくなってしまう――……
見てんじゃねーよキモッ
明日5万持ってこなかったら学校でてめーにおっぱい触られたって言いふらすかんな
そ……そんな無理です……
……
……5万なんて
お前そんなにされてさあ……
悔しいとかないの？

さっきの生意気なメスガキ共にさあ……
仕返ししてやりゃいいんだよ
……ここだけの話
……そうかー
どんな女も後腐れなく分からせる簡単な方法あるんだけど…
…これだ

怨結びは――
授かるだけで容易に
「事に及びやすくなる」
そういう力がある

だったらめんどくせー
説明なんか省いて
『ヤりたい』奴らに
バラ撒いた方が
よっぽど効率的だ
そして櫻先輩は――
自分自身は
良くても
そんなクソ共の
餌食になる他人を絶対
放ってはおけない

警察を辞めたところで怨結びからは逃れられない……
結局あんたは
俺を追い続けるしかないんですよ…！
櫻先輩!!
ゴッ
トッ…
……私が
『彼』を壊した……

「先輩がケガしたのかもって」
「いてもたってもいられなく・・・」
「・・・自分でも驚いてるんですけど、」
優しい子だった

いつも私を心配してくれて
少し頼りない所もあったけど
私があんなことした時も
「先生……」
「すみません……おれ……」

「できません……!!」
私が
止めるべき相手は

佐々くん……
どうして……!!
呪いを撒き
貪欲に信仰を集め……
紅よ
そうして叶える貴様の願いが
如何に醜いものであったとしても――
蛇……

その建物——
それに……その姿——
このくだらぬ騒ぎ（怨結び）もいい加減終わりにしてやろう
それが妾（わらわ）の『神』としての——
最後の務めだからの

第六十一節❖エゴ
……叶
お前に伝えなきゃならないことが……あるんだ
本当は……「こうなる」前に言うべきだったんだが
怨結びを終わらせたら
形はどうあれ……今の俺は

居なくなる

……ですか？

……知ってたのか

蛇が全部ゲロってましたから

言い方

あの一つだけ聞きたいんですけど

今の怨結びって……

クビツリさんが終わらせる必要あるの？

今となっては蛇もあなたも怨結びを扱えず

別の神さまと仲介人が引き継いでいる

それって言い換えれば

クビツリさんたちの役目はもう『終わった』とも……言えますよね

それは……
一度舞台を降りたあなたがそうまでして怨結びを止める理由は何？

クビツリさんが望むなら
ずっとここで私と暮らしてもいいんです
もしもいつかあなたが
罪の意識で壊れそうになったなら――

私が此の手で殺してあげます
今度こそ絶対に戻らないよう……
徹底的に
大丈夫……寂しくありません
私も……すぐに追い付きますから——

……ごめん

もし俺が……今も自分を
『神社で死んだ男』だと思い込んだままだったなら
あるいは叶の誘いにも揺らいだかもしれねえ……
けど―― それは出来ない
……
……馬鹿げた話に聞こえるかもしれねえが
眠ってる間 俺は…不思議な世界に居たんだ

そこで呪い人と
再会した
人を消しすぎて
最後には自分まで
消えちまった奴だ
ただの夢
かもしれない
それでも――そいつの
痛ましい姿を見てから
ずっと考えてた
悪いのは……
『怨結び』か？
それを使う
『呪い人』か？
それとも――
呪い人をそこまで追い詰めた
『環境』なのか？

妾は──
……『悪』か？
違う…‼
何かを悪と
決めつけるのは
簡単だ……
そいつを排除すれば
解決した気に
なれちまうんだからな
でも怨結びはもうそんな
単純な問題じゃねえって
気付いちまった
じゃあ俺が怨結びを
止めたい理由は何かって
そんなもの──

……そんなもの
ただのエゴだよ
怨結びが『悪』だから終わらせたいんじゃない
俺は
正義でも何でもなく……ただ自分の『エゴ』のためにケリを付けたいだけなんだ

後悔してる奴にもう一度選ばせてやりたい

名無たちの『安登まつりを取り戻したい』って願いを叶えてやりたい

蛇を…あの神社から解放してやりたい

あとは――

……そうだな

死んじまった『コイツ』がいなけりゃ

今こうして叶に触れることも……

誰かと言葉を交わすこともなかった

九来木って男には感謝してもしきれねえんだ

……だから――

…… …

……

……ごめんな
……答えなんて分かってたもの
クビツリさんは朽ち縄であろうとなかろうと私の元には残らないって……
それどころか――あの日出会ったのが私でなくても
あなたは関係無くその子を助けてた…

そんな
あなただから
好きになったん
だもの……
言っとくけど
相手が叶でなきゃ
俺はすっ…
好きになったり
してねえよ……
叶だから好きに
なったんだよ
俺はよ！
……うれしい――

？
今なんか……
やだ怖いこと言わないでください
気のせいですよ♡
下から……音しなかったか？
それより――
……実は名無ちゃんから連絡がきてたんですよ
『儀式』の準備が整ったって
儀式？
儀式……って何の…
聞きたいですか？
でもその前に

私が一生
忘れられない
くらい
・・・・・・
最高の思い出を
作ってくれたら――
お話し
しますね・・・♡
・・・・・待て
じゃあなんで
制服着たんだ
クビッツリさんの
ために決まってる
じゃないですか♡
こんな時間から
学校なんて行くわけ
ないでしょ？
・・・・・・

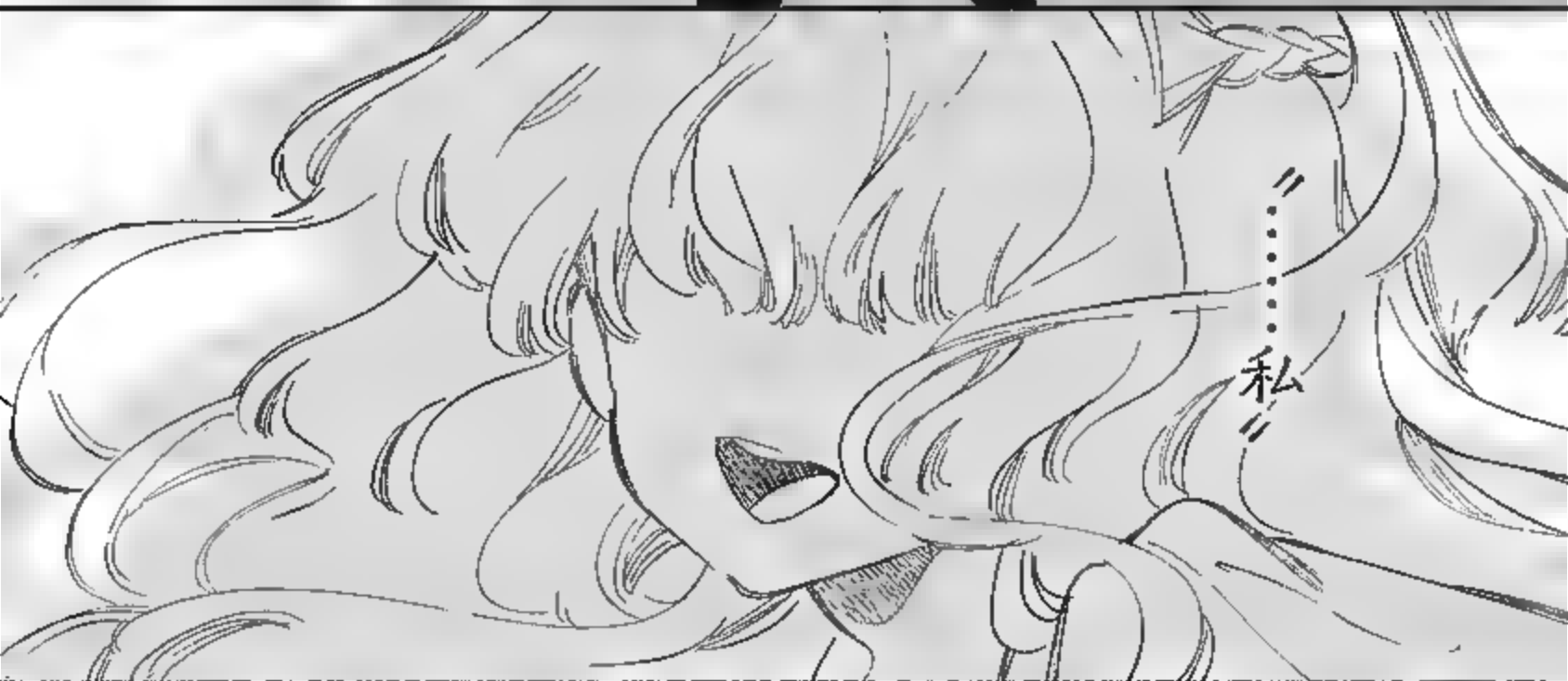
やはり――
……戻ってきてしまったのだな
クビツリよ
妾は一応『儀式の準備が出来た』とは伝えさせたが……
別にそなたに『戻ってこい』とは一言も言っておらぬぞ？
神社への出禁を破ってまで戻ってきたからには――
相応の覚悟はできておるのだろうな？

まだるっこしい
言い方よせよ
出禁なんて出まかせで
儀式には最初から俺が
必要不可欠なんだろ
全部聞いたぞ
このやろう
ちっ
余計な
ことまで
教えおって
『俺たち』は初めから
お前を救うため――
ここに辿り
着いたんだ
今更覚悟も
クソもあるか！

はぁ――ぁ
『男』にして貰った途端デカい口を叩きよる
今そこ関係ねえだろ!?
ってかお前…まさか全部見て
めりっ
誰が見るか阿呆め
……しかしすげえなこれ――
……本物なのか?
今まで鳥居と枯れた大木しかなかったのに
触れる…
なわけなかろ
ここにある物のほとんどはまやかしだ
ならなんでそんなもんが必要なんだよ

これはまあ――
単なる雰囲気作りだ
?
大人のように
見せかけた
妾の姿も含めてな
まあ座れ
早速だが
儀式について
説明させてもらおう
さしあたって
まずは――
……
叶?

クビツリさんが無事神社に戻れたことを見届けたので
私は帰ります
そう……か
あ
なら俺が送らねえと――
ふふ♡
それじゃずっとお互い
送り合いになっちゃいますけど？
あ……
それもそうだな…
……大丈夫一人で帰れます
あなたは・・・まだ私の中にいるもの
……

こつん
あなたのエゴ……叶えてください
きっと――何もかもうまくいきますよ
……き
――叶!!

〃あきらめませんよ〃

――……叶……
こないだ東野くんのエンムスビにまぜて貰ったんだけどさあ

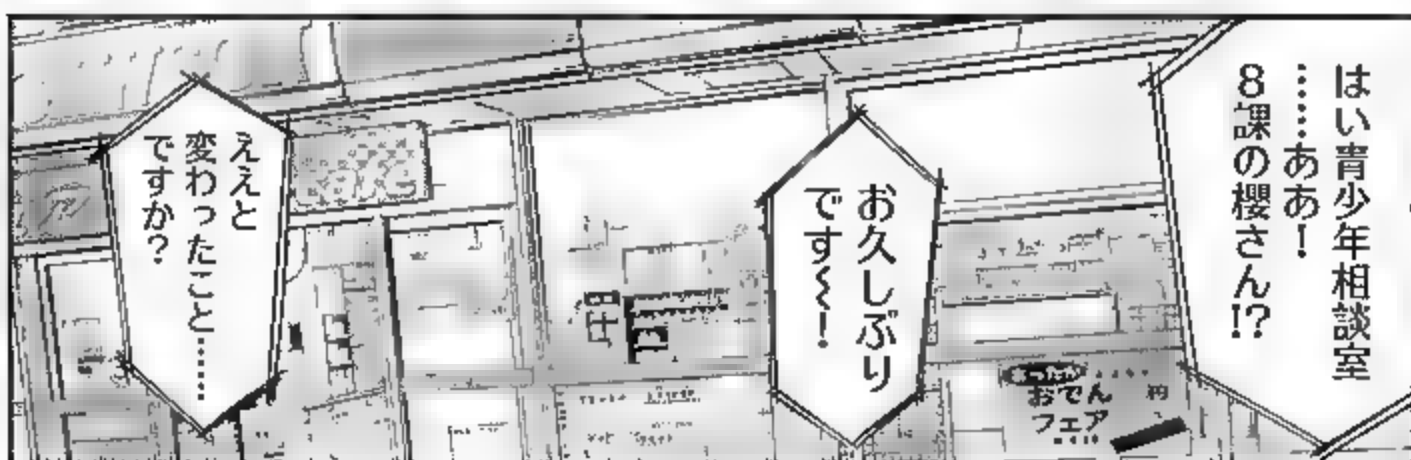
東野くん？
おまえら神社巡りでもしてんの？

馬鹿かもっとイーもんだって！
ならもったいぶってねーで教えろよ
ゴッ
ゴッ

だから……ヤれんだよ
誰でもぜってーヤれるって話
しかも『証拠が残らねえ』

なにそれヤバイ系のお薬？
違う でもエンムスビ使えば女とヤりたい放題
まず下っ端にエンムスビってのを受け取らせて
全員終わったら最後にそいつがヤっておしまい
でも本命には使っちゃ駄目だ

何せヤった女は
その場で消え
ちまうんだからな
嘘だと
思うなら
今度お前も…
……
…

プー……
プー……

はい青少年相談室
……ああ!
8課の櫻さん!?
お久しぶり
です～!
ええと
変わったこと……
ですか?
おでん
フェア

最近女の子ばかり
何人も消えてて……
家出で片付け
られてる子が
ほとんどですけど

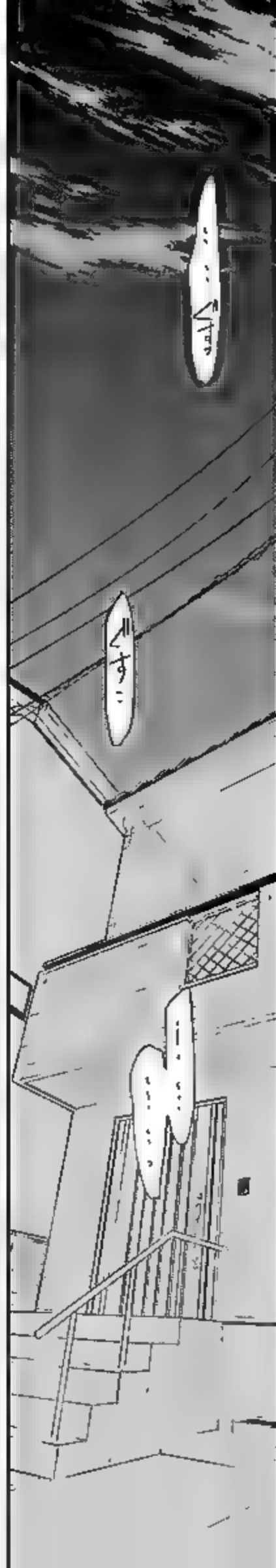
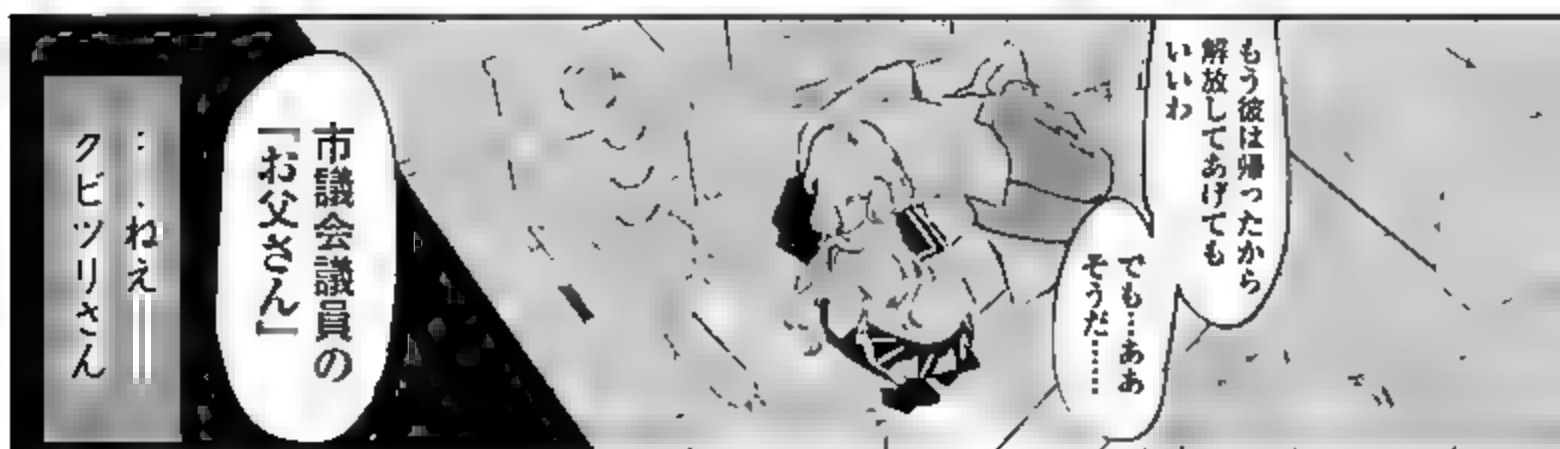
人身売買じゃないか
って噂が流れるくらい
ホントにひどくて……
…あら?
櫻さん?
さ……
プッ

ギロ
やべ おねーさんに聞かれた(笑)
そろそろいくべ
怨結び(えんむす)は以前とはもう全くの別物になってしまった・・・
呪い自体が変わったわけじゃない
手際……そう
手際が良すぎる
『呪いを授ける』のとは根本的に違う

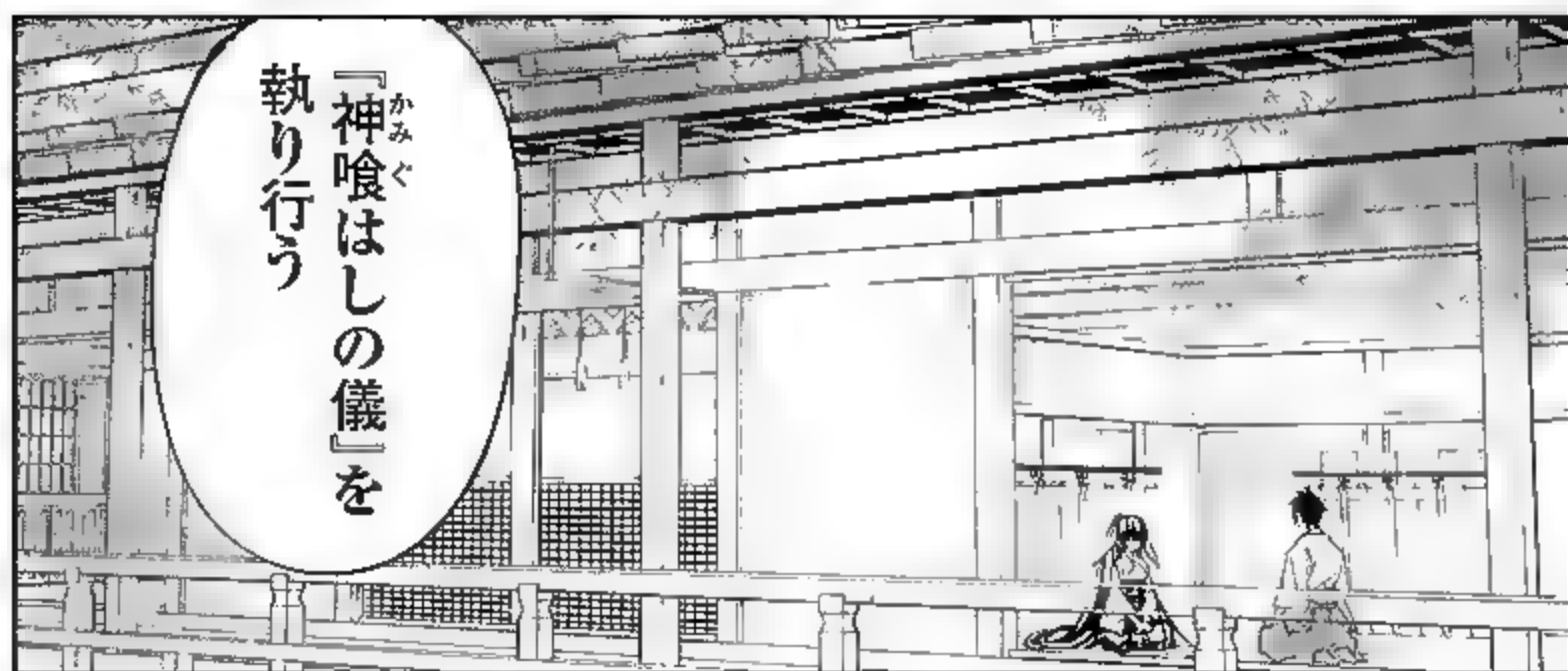
もはや効率『だけ』を考えた――
呪いのばら撒き
それもきっと年齢を問わず『男性』に需要を絞った――……
これが――……佐々くんのやり方なのね
警察を辞めてしまった今の私に出来ることは限られてる……
でも
こうしてる間にも女の子たちが理不尽に消されて――…!!
……お願い

みんなを助けて
あっ…
ん…
あ…
ん
仕方ないんだ
櫻先輩が追って来ないうちに
やるしかない
やるしかないん
クビツリさん
蛇さん――……!!

音を出すな

って……散々言いつけておいたでしょ…？

例えば　かって
歴史の深い深ぁい神社が
建っていた土地って……
クビツリさんの
望みが叶うよう
町おこしとか
文化財とか……
何かしら適当な口実を付けて
手に入れる方法――
私は心から
願ってます
だからね
叶ったその後は――
ねえ……
……何か……
ないかしら？

――愛する者に想いは伝えたか？
大切な者に伝え忘れたことは？

………ではこれより

『神喰(かみぐ)はしの儀』を執り行う

第六十二節❖安登家の休日

第六十二節
❖
安登家の休日

新たに分かったこれまでの怨結びとの相違点は――
女性被害者が圧倒的に多いこと
ペラ
そして呪いが成立したらミニチュアの『鳥居』を作らされるらしいこと
この二つだが
櫻くんの調べたところによると
肝心の『縁を失う代償』についてはは聞かされてすらいない例がほとんど
だったかな？
……はい
意図的に伏せているのかもしれません
だからこそこれほど多くの人が安易に怨結びを重ねてしまう……
話を聞いた人は事実を知ってひどく動揺してました
うーわえげつな
あーちなみに鳥居の件だけど

元被害者の会でもいくつか情報流れてきたから
どーもマジもんっぽいね
蛇もチラッと言ってたけど
紅ってやつが とにかく『信仰』を集めたがってる説はいよいよ濃厚かも

…あの
新たな怨結びに
佐々くんが関わってると
聞いた時も
安登警…安登さんは
驚く様子もなかったですし
お二人とも私と違って
なんだか…冷静だなあ
…って思って……
私だけ……
こんなに動揺して
情けない
です……
もともと佐々くんは
ちょっと怪しいところが
あったからなあ……
えッ!?

いくら1課が
僕らを調べても
二瓶さんの事件に繋がる
『証拠』は当然何も出ない――

身に覚えがないならば
『証拠が出ない』という
言い回しはひっかかる
なにより怪しいのは
二瓶刑事を襲った場所と
タイミングが完璧過ぎたことだね

あの時点で犯人は
警察関係者だと
言ってるようなものだよ

まあ後からなら
なんとでも
言えるけどね
ははは
僕は最初から
胡散臭いと
思ってたけどなく
だってアイツ
いけすかねーもん
名無ちゃん
まで……!?

まあ……だからといって

まさか彼自身が
怨結(えんむす)びを配り歩いてるとまでは思いもしなかったけどね
ひどく……残念だよ
今からでもとっ捕まえればいーじゃん
住所くらいわかってんだろ？
……そうもいかないの
佐々くんが選ばれた理由は分からないけれど
クビツリさんと違って……彼はごく普通の人間なの
つまり――
仲介人の代わりはどうとでもなる可能性が高い
ピロピロピロッ
ピロピロ
ってことか……

いっけない！
約束の時間なので私……
鳥居を作ったっていう人に話聞いてきます
何か分かったら連絡しますね！
ドタ
バタ
バタ
バタ
バタ…
……櫻のやつ
同僚がああなったのは自分の責任とでも思ってんのかね？
そういう君は神社を出てからすっかりやる気のない様子だが
気負い過ぎてドジ踏まなきゃいいけど
…じゃあ訊くけど僕らに出来ることって何？
せいぜいこうして済んだ怨結びを追うことぐらいじゃん

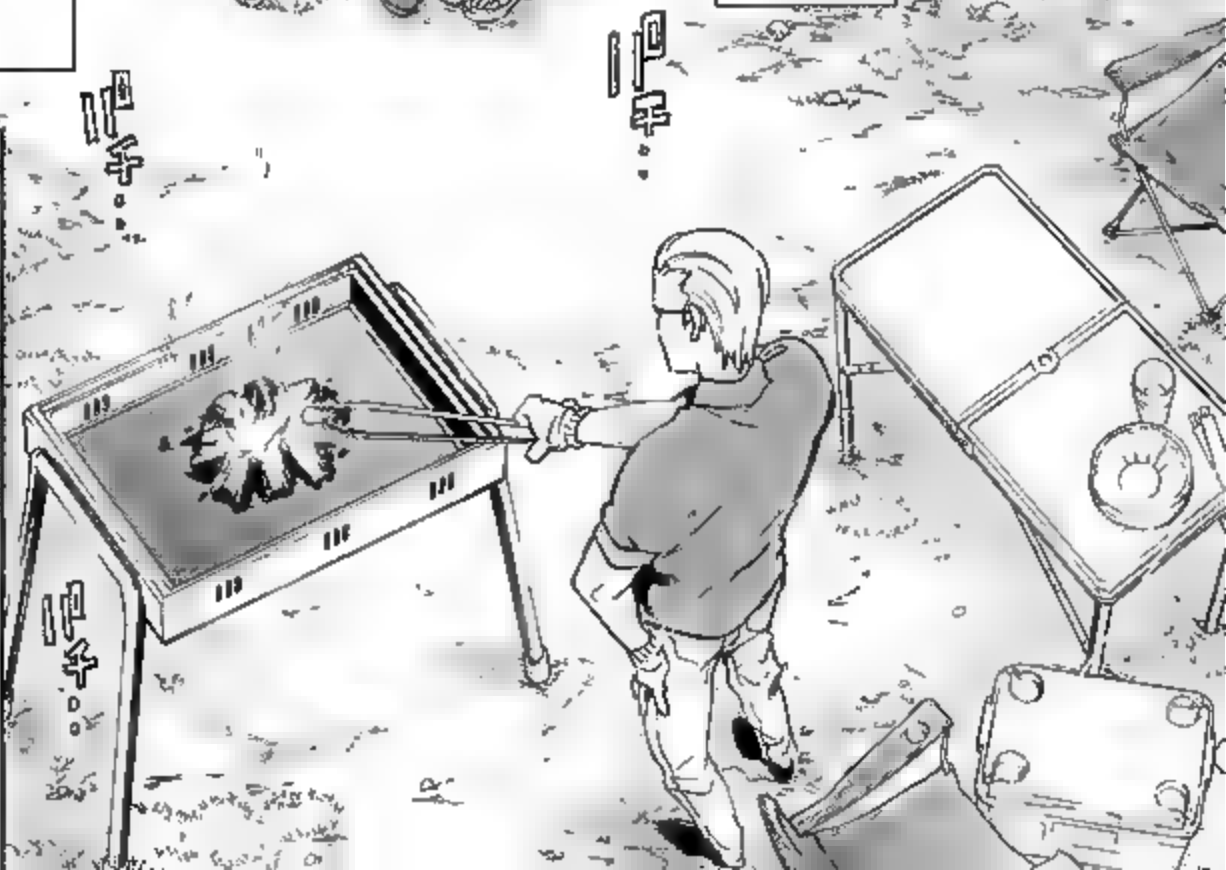
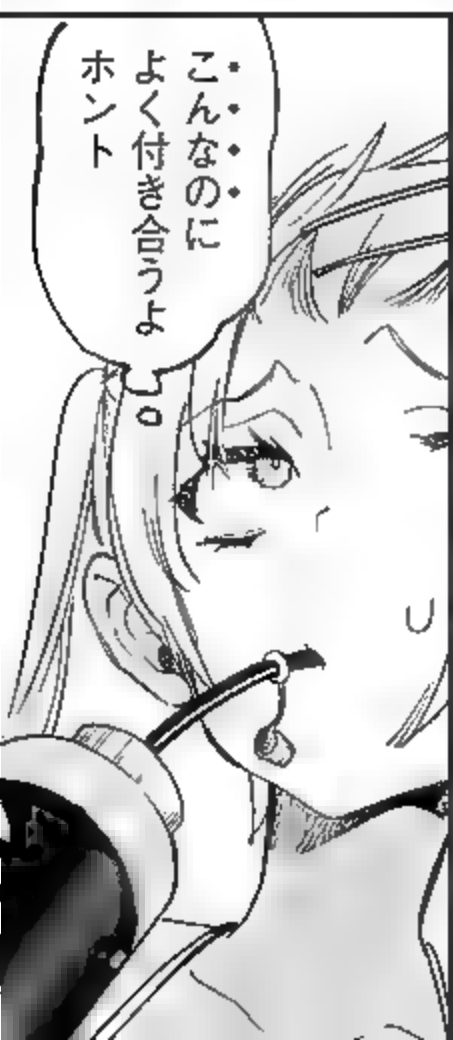
蛇から全てを聞かされた今
根本的な解決には結局『儀式』とやらが成功するのを祈る他ないって知っちゃったんだ
僕らにできることなんてもう――
なんも無いじゃんか……
――できること……
――そうか
あったぞやるべきことが
は？

パチ…
パチ…

ジリ…
ジリ…

え……なんだ
なんだコレ…
なんでこう
なったん
だっけ……？

パチ…
パチ…
パチ…

……ふぅっ

ＢＢＱって結構あついんですねえ……
今日は特別日差しが強いみたいだし
あ〜帽子くらい持ってくればよかったあ……
つぅ――…
火の準備にもう少しかかるから二人はまだ木陰で休んでてね！
あっちゃんとお水も飲んでね
あ　あっす…
櫻のやつは暇人なのかよっぽどお人好しなのか……
・・・こんなのによく付き合うよホント

よし明日は休みにして出掛けよう
は？
櫻くんにも声をかけておこうね
雛は――まあ嫌々来てくれるだろう
うき
うき
いや……
休みも何もアンタら今無職だよね
あーもしもし櫻くん？さっき言い忘れてたんだけどねぇ
聞けよ!!
そんでよりによってこのメンツでＢＢＱって……
何考えてんだあのおっさん
はぁぁぁ……
じり…
じり…

父さん　いったいどうしちゃったんだよ……
仕事は辞めるわ突然ＢＢＱとか言い出すわ……

姉ちゃんの次はいよいよ父さんがおかしくなったのかよ……
そんなの僕が聞きたいよ……
あとママのくだりは余計だバカ

二人は何の心配もいらないよ
仕事のアテならいくらでもある
ポン

こう見えて父さんはすごいんだよ
はっはっは
はあ……
いつの間に背後に……

櫻くん
悪いね大変な時に連れ回しちゃって
休んでていいよ

いえいえ
そんな!
こちらこそ
お誘い頂いて
どのみち
調査以外はしばらく
無職満喫するつもり
でしたしっ
――……ただ
怨結びも解決
してないのに私
遊んだりしてて
いいのかなあって…
少し――不安です……
………
決して擁護
するつもりは
ないが
佐々くんの
気持ちも
少しだけ
分かるような
気がするね
え
君は『代償』を
抜きにしても
怨結びに囚われ
すぎているんだ

君に好意を抱いた
彼にしてみれば……
櫻くんの心は常に
怨結びだけを追っていて
自分には決して
見向きもしない——
……そんな風に
感じていたかも
しれないね
……そんな
こと……

なあ……
二人で何話してんだろ？
さあ？
どーせ面白くもない話じゃない？
そーゆーツラだよ
……
突然元部下って名目で あんな美人連れてきて……
俺たち子供と一緒にＢＢＱして
かと思えば二人して話し込んでる……
……これってもしかして——

あの人と
再婚……

いやいや…
…ぷふっ
いやいやいや
いやいや
仮に!! ……仮に
あの二人がけっ……ふふっ
結婚したらだよ?

はぁい
今年のおとし玉ですよお
おとし玉
櫻が僕の『お婆ちゃん』ってことに…

あのカオで!
おばあ……
ばはっ!!!
わ
笑ってる
場合かよ!
ないとは
言い切れない
だろ!?

くっくくく……
いやぁそっかぁ
ひーw
雛くんはパパの
再婚がイヤなん
でちゅかぁ……

まだまだガキだな～w
うぷぷぷぷ

はあああ!?

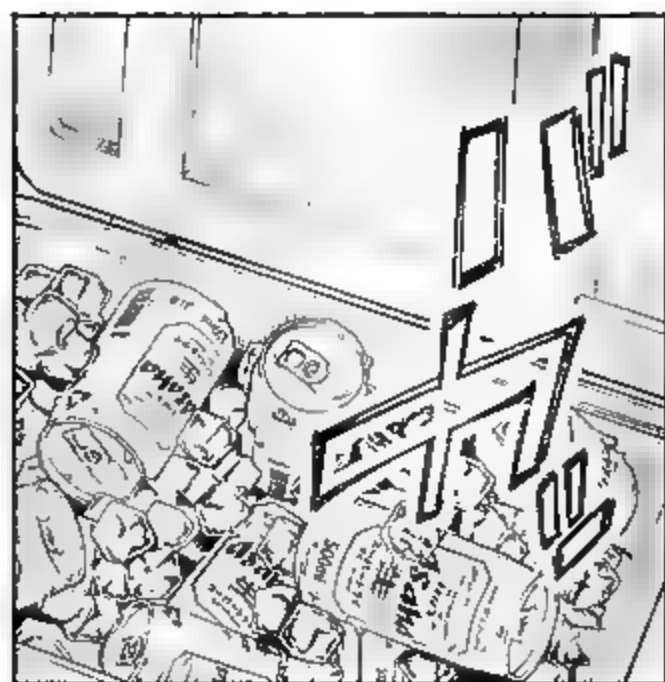
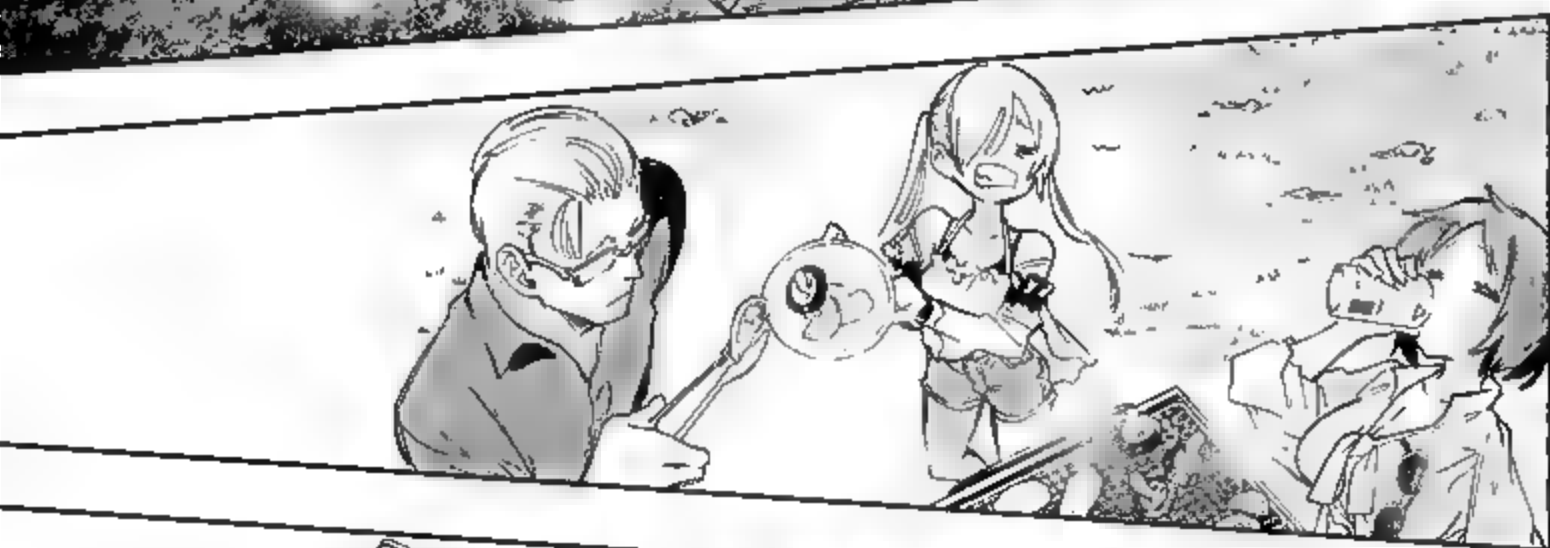
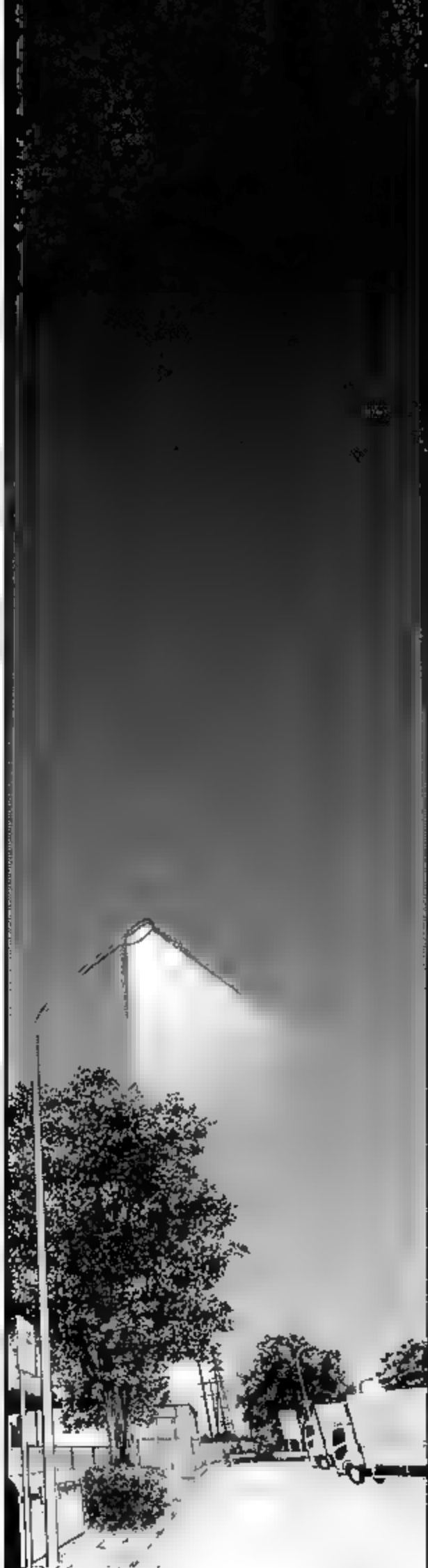
現在進行形で幼児退行してる姉ちゃんに言われたくねーんだけど!?

待てってば！逃げんな！

？

すー
すー…

はあ〜……
もぉ〜
おうち帰りたく
なああい……
むにゃ
わらし大自然の中で
くらすのぉ……♡

ガコン

……なんで今日
唐突に出掛けよう
なんて思ったんだよ
……なんだ
起きてたのか
櫻の寝言が
うっさくて
寝てらんないよ
ははは
確かに
……君に
『もうできることは
何もない』と言われてね

思わず体が動いてしまったのさ
それは・・・・・違うと思ったからね
はあ？
君に殴られた時――
……あの日初めてしっかりと君の目を見たよ
別人――だった

私の娘まつりはもう
『この中』に居ないのだと
最も知りたくない現実を突きつけられた気がした
――ま
あんたにとっては娘を乗っ取った僕も憎しみの対象だよね
……じゃあ尚更
今日のは・・・どういうつもりだったわけ？
……そうだな
色々なことを知ったおかげで
ようやく私は前に進めた……

私たちの人生は怨結びによって大きく狂わされたが
失うばかりではなかったと――
……思えるようになったんだ
君のことだよ
……ははっ
なんだそれ？
今更そんなご機嫌取りしなくても……
安心しなよ！
ママが戻ったら僕は綺麗さっぱり消えてやるからさ～
――忘れないで欲しい

君と向き合った人間が
『彼』以外にも沢山
居たということを
君は……普通とは
少し違う形で
生まれたけれど
「この世界は
辛いことばかりじゃ
なかった」と
今日のことも
「そんなことも
あったな」と
覚えていて
くれたらと願うよ
…は？
なに…
言って
だから

帰ってきなさい
まつりが戻ったら
今度はきちんとまつりの子として生まれてくるんだ
その時は『名無』しだなんて呼ばせないよ
とびきり良い名前をみんなで用意しておくから

——ママを取り戻すことに

迷いなんてない

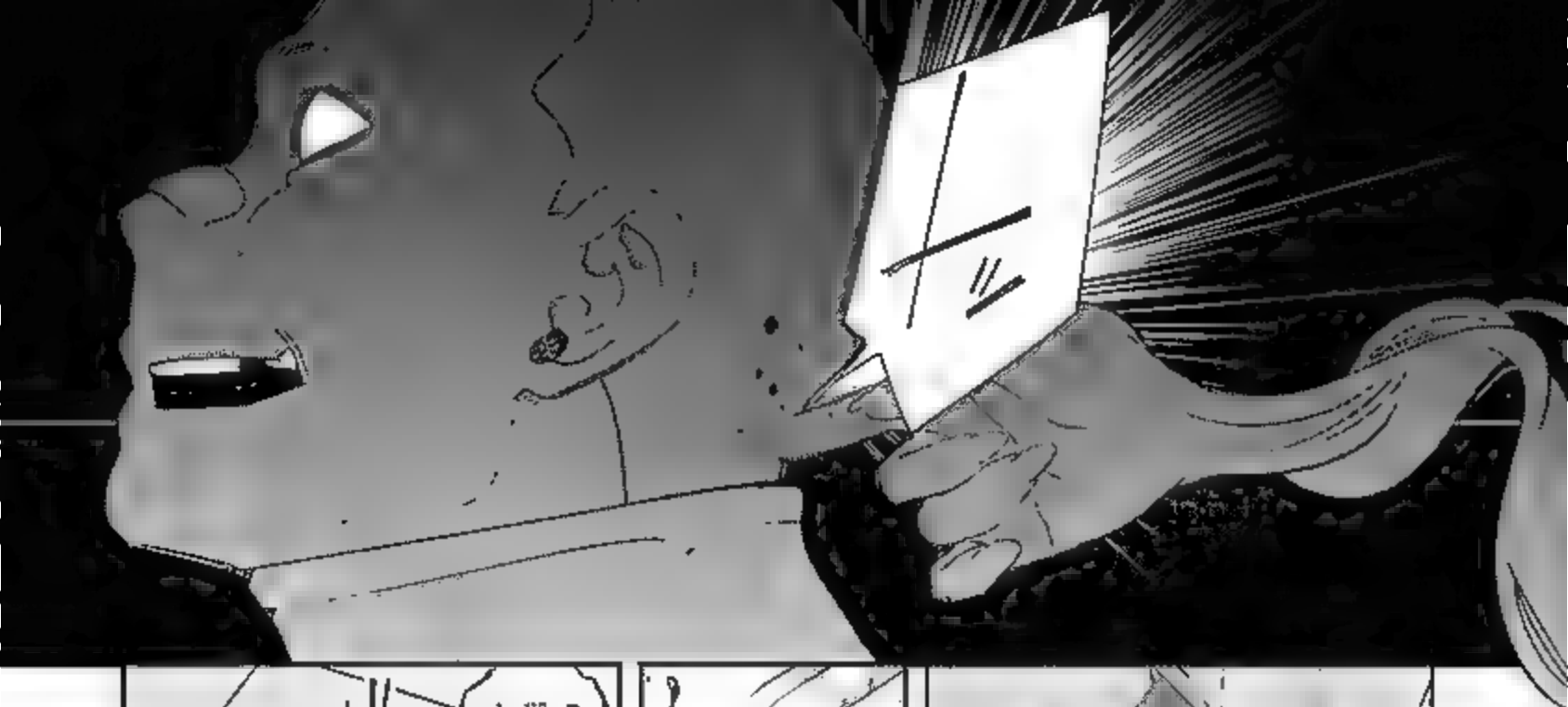
唯一僕を認めてくれた
が消えるなら
こんな世界に
の未練も
たのに
……あいつは
しく
ないのかな

願いと引き換えに
自分自身が消えることに
何のためらいも
ないのかな
僕は――少し
……ほんの少しだけ
消えたくないって
思っちゃったんだ……

……ざけんな
ふざけんなよ……っ

こないだ会った女の話が本当なら
俺が事故ってちんこ無くしたのも怨結びのせいだったってことじゃねえか
聞いてねえよ そんなの……！

ズ…
ズ…
ズ…
へっ…へへ……鳥居置いてやる奴らは皆同じだ……
そうだ！

みんなしね @128s9a たった今
【鳥居見た奴全員タマ無し決定】
この鳥居見たらアウトってことにしちまおう
せいぜいビビり散らせ！

シュル
シュル
ふむ……難しい仕組みはよく分からぬが
あの娘……
何やら……余計なことをしてくれた……

ぷ
ぷっはー!!
久々の飲み食いは最高だのお！
……おい
儀式どこいった!?
あぁ〜？らから今こうやって儀式の前に…ヒック
…にしても名無の父が持ってきたこの甘い飲み物は絶品だのお！
やっぱ酒だこれ——!!
こんなもん飲んだらお前儀式どころじゃねえだろが——!!
すんだよぉぉぉ
……のうクビツリよ

身勝手は承知でな？
ちらっ
……なんだよ
気味悪いな
「儀式やっぱやーめた」とか言うのだけは勘弁してくれよ……
頼みがあるのだ
……
その……身体をな
元の持ち主に
妾に数々の温もりを与えてくれたあの童に――
返してやってはくれまいか……？

――なるほど

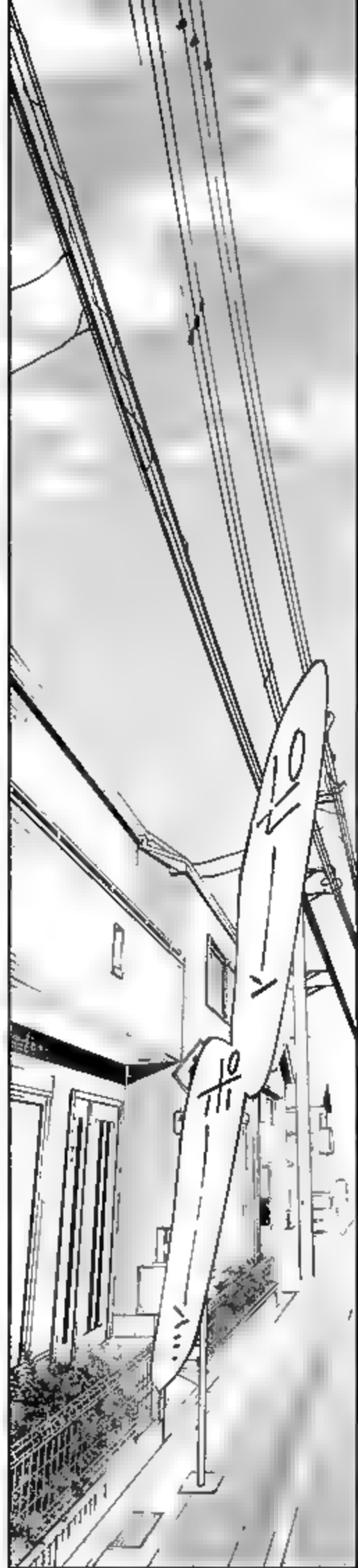
つまり その消えた『稲葉』という男子生徒が彼女の胸をからかうのを

クラス全員が黙認していた……と

……だって
いつものことだから
皆『またか』って感じで
稲葉くんが櫻さんを
好きなのはバレバレ
だったし

……あんなことになるなんて
誰も思わなかったから……

櫻さんとは小学校から
同じだったけど
櫻さんのおっぱいすっごいのー!!
稲葉くんが失踪して
変わったんですよ
あの子
というと?

言葉は悪いけど
ヤリマン
っていうの?

男子テニス部のマネージャーになった時は
部員全員とヤってたとか
なんなら頼めば誰とでもエッチしてくれるとか……
そんな噂が男子の間で囁かれてたみたいで
高校でも相変わらず大人しい子だったけど
人は見かけによらないっていうか
そんなだから女子の皆から嫌われても当然……
え あの…
櫻……さんに何かあったんですか
いえ？

大変参考になります
情報提供有難うございました
……
なるほどね
櫻先輩はこれまで自分をないがしろにすることで
人を消した罪悪感を紛らわせ
心の均衡を保ち続けてきたわけか

『稲葉』……

もう・・・ゆるっ・・・して
以前先輩が口にした名前――
いなば・・・あっ・・・
全ての元凶

怨結びに至った経緯は極めて稚拙で単純
構って欲しさから櫻先輩をからかい続けた稲葉に彼女の鬱憤が爆発し――
最後は怨結びの力によってその一線を越えた

いったいどんな奴かと思って調べてみれば――
……くだらない

……先輩の過去を
辿ってようやく理解した

何があってもきっと
彼女の心は動じない
ブツ
……だから毎日
せこせこ呪いを
配り歩いて……
あの人に無理矢理
追わせようと
してるんだ…俺は
ブツ
どうにかして
先輩の心を
動かしたい一心で
男に犯されようが
女に嫌われようが
次の日には何事も
なかったかのように
日常を送ってきたんだろう
絶対に振り向いて
くれないのなら
せめてあの人の
『傷』になりたい
怨結びのトラウマなんて
塗り潰すぐらい
傷付けて
傷付けて

その後は？
櫻……
先…輩？

私がここに来てることは誰も知らない……

携帯も置いてきたわ

……今日はあなたと個人的に話をしに来たの

〝佐々君の気持ちも少しだけ分かる気がするよ〟

〝君は代償を抜きにしても〟

〝怨結びに囚われすぎている——〟

そのせいで佐々くんは怨結びの仲介人に……

そして無関係な子たちまで呪いに巻き込んでる…!!

だから？

それを止めるためならなんでもするって？

……今

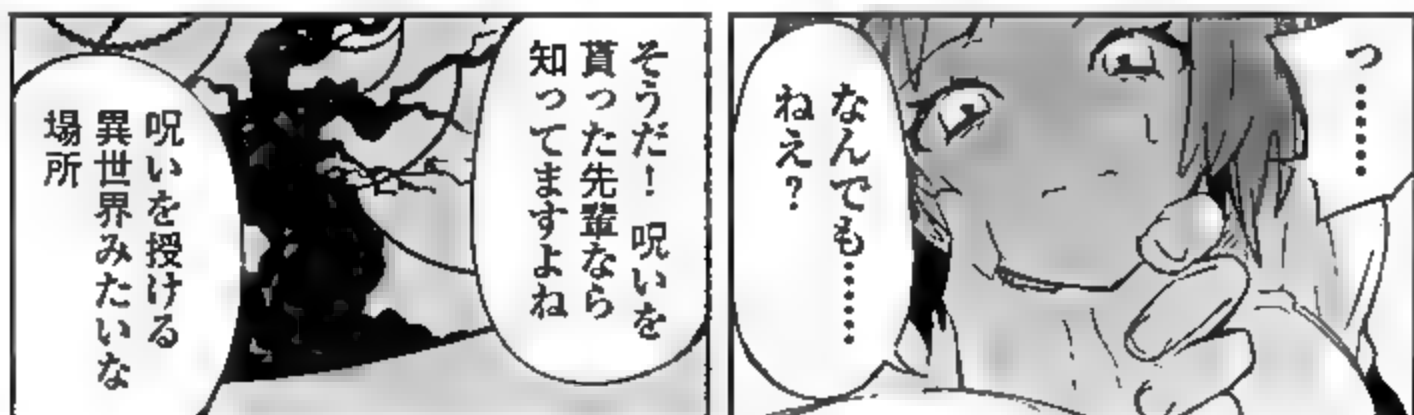
蛇さんたちは怨結びを止めるための『儀式』を始めようとしてる…

それがうまくいけば
私たちが何もせずとも──
…解決するのかもしれない

だけど

お願い……私
佐々くんには
『自分の意思で』
やめて欲しいの……
……だって

そして・・・どうか──
思い直して欲しい

……僕が
『可哀想』
だからですか？
っ……
なんでも……ねえ？
そうだ！呪いを貰った先輩なら知ってますよね
呪いを授ける異世界みたいな場所
一生誰にも見つからない
そんな場所で先輩を――
『飼って』みたら
ん
少しは僕の気も紛れるかもしれませんよ？

首輪で繋いで
裸で四つん這いになって
尻尾を垂らしてね
たまになら散歩に連れ出してあげてもいいですよ
当然犬としてですが
…えっ？
一生…って
でも
どうします
今ここで人間辞めますか

……どうやって
そこに行けば……いいいの？
あっはは！
いいんだ!?
プライドとかないいんすか先輩は!!
ぶっくくっ……とっ
ひー
ひー
あー笑った
『鳥居』ですよ……
ある日突然「声」が聞こえて気が付いたら手の中に握ってた――
煤けた木の枝で組んだチンケな鳥居
そこを通じてアッチに行くんです

声――――
木の枝?
蛇の話では
紅って奴の正体は桜の木で
神社の御神木だって話
現存しているのは
枝一本のみだけど
神社で燃えたそいつが
どうやって逃げおおせたかまでは
分かんないらしいよ――
木の枝で組んだ
……鳥居
ま……
さか

この鳥居さえ無くなれば
佐々くんは

ダメじゃないっすか
人ん家の物勝手に触っちゃあ
従順になったフリして油断させて……
つくづくひどい女っすね
ちがっ…
私はただ
前の…佐々君に戻って欲しっ…て…
イライラする

どうすれば
何をしたら
先輩は

その…娘は
吾の信仰を貶めた……
そやつが要らぬ根回しをしたせいで
鳥居を処分し始める
不届き者すら出る始末

な……んで
出てきてんだ
この…化物……
安心するが
良いのです
……？
外道の
お兄ちゃんが
やらずとも――
吾が手ずから
罰を下して
やるのです

は？

俺

何やって……

うっそだろ
クソ……

これじゃ結局俺も

稲葉ってガキと同じ

……ただ先輩に

構って

欲しかっ……

うお
なんだ……地震!?
ドドドド
驚いた……紅の奴め——

とうとう現世にまで顕現しおった……!!

は!?

なんだよいきなり藪から棒

にっ!?

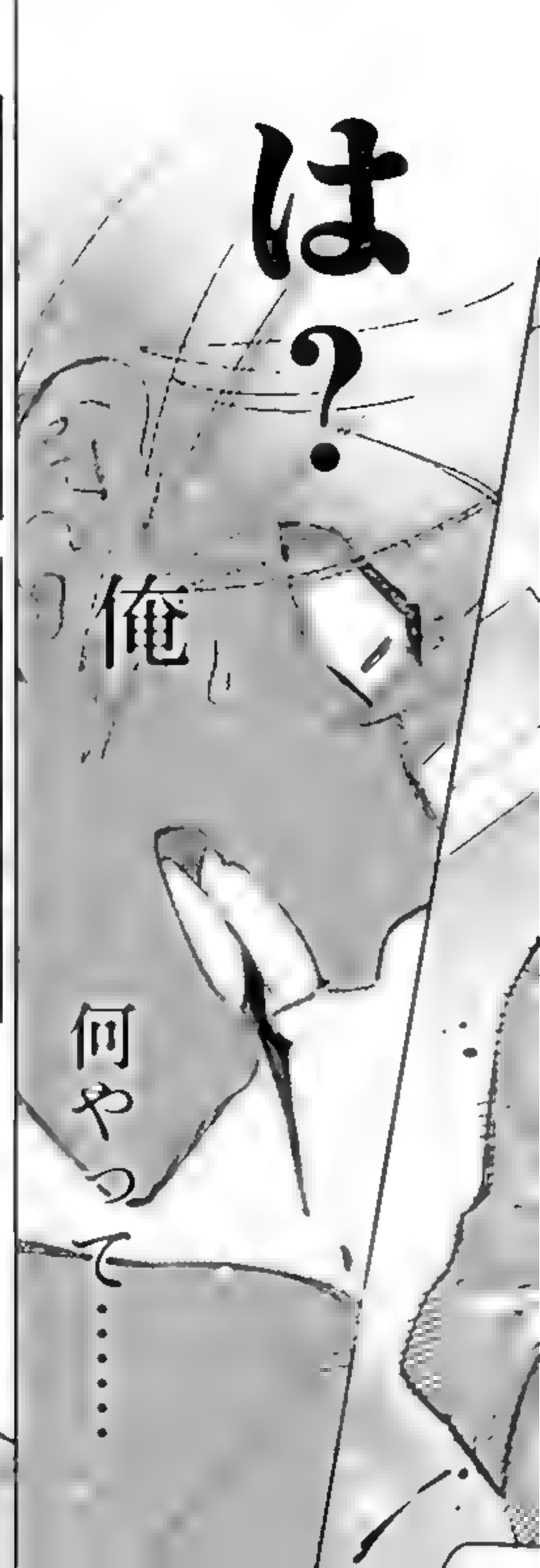
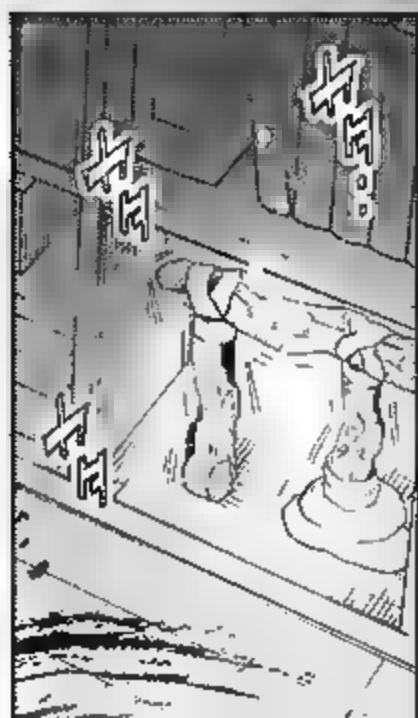
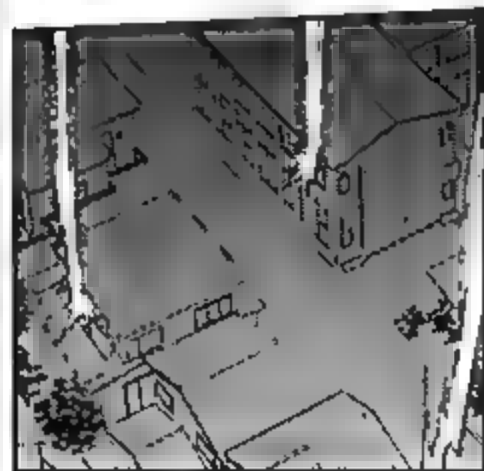
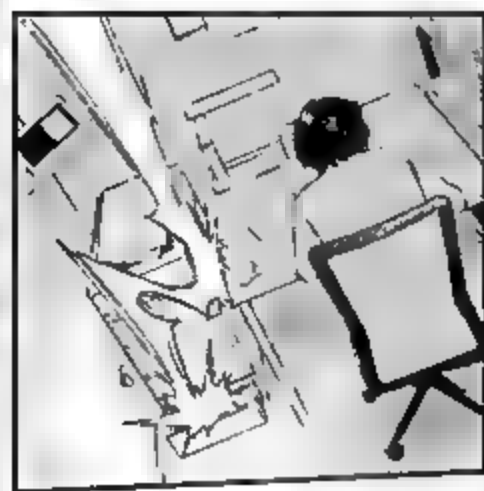
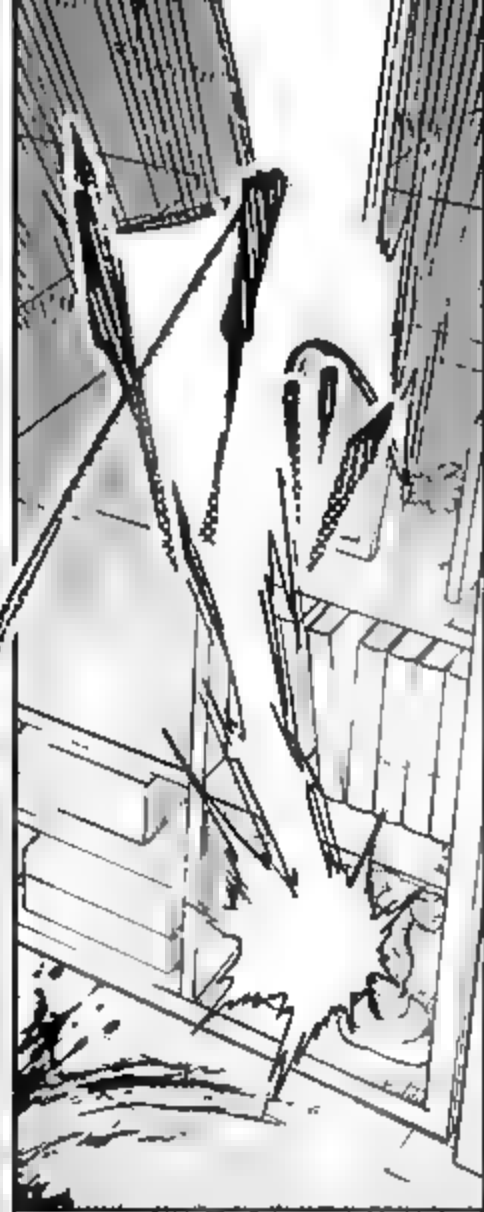
急ぎ先ほどの答えを聞かせてくれ!!

お前に先越されたせいで なんか格好つかねえけど……

返すよ

俺もそうしたいと思ってたんだ

散々酷使しちまったけど

いい加減休ませてやらねえとな…

……有難う
これで妾は安心して
退くことが出来る……
!?
お前――
何してッ
『神喰はし』
とは
かつて村人たちが――
妾の血肉を使って紅に施した
『神を乗っ取る儀』
しかしそなたを肉塊にして
喰ろうてしまうては
童に返すことも出来ぬのでな
その代わり

朽ち縄よ
今こそ妾と『ひとつ』になって妾を乗っ取り——
そなたが神と成れ
『神さまの怨結び』第⑪巻／完

to be continued……

Special thanks
tarow
Kaeru Shinshi
Runa
Chia
M. Hamano

第一話某シーンの2人です。
懐かしいですね。
クライマックス直前で難しい話が
続いてしまいましたが
それもいよいよ終わりを迎えます。
宜しければ怨結びとみんなの戦いの結末を
どうぞ見届けてやって下さいませ。

神さまの怨結び

完結

蛇と朽ち縄、
二人の選ぶ『最善』の結末は――
最終12巻、少女たちの涙、その果てにあるのは――

神さまの怨結び

かみさまのえんむすび

電子特装版

神さまの怨結び 11

❖かみさまのえんむすび

限定特別画集

守月史貴

Champion RED Comics

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

本編見てから読んでね的なおまけ

ス・・・
※いちばん嫌がりそうなやつにした。
今ここで人間辞めますか
!?

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

Presented by KAMIZUKI SIKI
KAMISAMA NO ENMUSUBI

チャンピオンRED
コミックス

神さまの怨結び 11

2021年6月1日　初版発行

著　者　守月史貴

発行者　石井健太朗

発行所　株式会社 秋田書店

〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社

ISBN978-4-253-23613-3

デジタル版　2021年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com